

## 令和4年度 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営協議会議事要旨

- 日 時 令和4年 5月10日(火) 第1部 13:00～13:55  
第2部 14:00～15:03
- 場 所 WEB会議システムによる会議
- 出席者 大井手佐賀県教育庁副教育長，吉牟田佐賀県教育庁教職員課参事(課長代理)，緒方佐賀県教育庁学校教育課指導主幹(課長代理)，上赤佐賀県教育庁教育振興課長，中村佐賀市教育委員会教育長，古賀鳥栖市教育委員会学校教育課長(教育長代理)，松尾武雄市教育委員会教育長，青木佐賀県高等学校長協会会長，上野西九州大学子ども学部長 【9名】  
小野，平田，米田，松尾，井邑，荻野，後藤，小松原，下田，堤，中島，野田，江川，江口，木田 【15名】
- 欠席者 栗原唐津市教育委員会教育長，牟田佐賀県小中学校校長会会長，高柳 【3名】
- 列席者 浦川，坂田，木下

### 議 事

議事に先立ち小野研究科長から挨拶があり，次いで出席者の自己紹介があった。

#### 【第1部】

##### 1. 令和3年度の運営状況について

先ず，荻野准教授から，資料2-1により，運営状況及び教育課程について報告があった。

次に，井邑准教授から，資料2-3により，県との連携・協力事業関係について報告があった。

次に，下田准教授から，資料2-4により，研究科の入試・広報について報告があった。

次に，荻野准教授から，資料3により，大学院生名簿について説明があった。

次に，研究科長から，これまでの説明を踏まえた質問・意見の発言要請があり，大要以下のような意見交換があった。

①学校現場については，働き方改革の推進により出張等が難しい状況であり，また，若手の教職員が増えていることから，放課後や空き時間等に受講可能なオンライン・オンデマンド配信形式の研修は，今後も続けていただきたい。

②いじめや不登校，発達障害，発達障害による二次障害としての不登校など，特別支援教育に関する内容については，需要が多いため，全コースでの指導をお願いしたい。

→全コース1年時の共通科目として「特別支援教育の基礎と課題」の受講があり、発達障害のこどもへの理解・支援について学ぶことが可能となっている。

また、大学の第4期中期計画において、特別支援教育の充実によるカリキュラム改革を行い、特別支援教育の授業だけでなく、発達障害支援に関する授業内容を盛り込むように対応を行っている。

③現職教員の派遣について、級外職員のいない小規模校では派遣が難しい状況のため、担任を持つ教員の派遣も検討いただきたい。

④現職教員の派遣について、盲・ろう学校教員の専門性の向上は可能か。

→知的障害・病弱・肢体不自由の1種免許状を取得している教員の場合は、特別支援教育のカリキュラム受講により専修免許の取得可能となっているが、現状、指導ができる専門の教員がいないため、専門性を深める指導は難しく、実践研究の深め方の指導助言のみとなる。

⑤特別支援学校以外の市町の学校で特別支援を専門にする教員の派遣は可能か。

→特別支援学級の教員については、特別支援学校の専修免許状の取得を希望する場合は、文部科学省の決定により、特別支援学校での実習が必須となっているため、特別支援学校での実習(2年間)を前提とした派遣が必要となる。また、専修免許状の取得を希望しない場合は、子ども支援探求コースの生徒指導教育相談系で発達障害支援等の受講が可能である。

## 【第2部】

### 1. 学生による成果発表

次の3名による成果発表があった。

①満木 翔斗 [授業実践探究コース 2年] (14:03~14:15)

『問題発見・解決能力の育成を図った中学校数学科の授業の開発』

②南里 和哉 [子ども支援探究コース 2年] (14:15~14:28)

『対話のある学びを活かした情報モラル教育—学校と家庭が連携した取り組みを通して—』

③一ノ瀬 沙織 [教育経営探究コース 2年] (14:28~14:44)

『ミドルの育成を目指した組織マネジメントのあり方の探究—若手育成のためのメンターチームの活用を通じて—』

### 2. 質疑応答 (14:44~15:08)

平田副研究科長の司会のもと進行され、発表者3名に対する質問・意見等があり、それぞれ発表者からの応答があった。